

## 事業計画書

事業名	不登校の子どもたちの居場所づくり事業
団体名	EdFuture

事業概要	
<p>松戸市で、不登校や学校に行きづらさを感じている子どもたち（主に小中学生）に居場所を提供し、学習支援やコミュニケーションを図る活動を行う。そのような活動のなかで、子どもたちの自己肯定感を高め、社会性を育む。</p>	
<p>取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）</p>	<p>不登校の児童生徒が全国的に増加しており、松戸市においても増加傾向にある。（全国の不登校の割合 小学校 H27：0.4% → R2：1.0%、中学校 H27：2.8% → R2：4.1%）</p> <p>教育支援センターなど松戸市の公的な不登校の居場所はあるが、旧松戸市立古ヶ崎南小学校に立地があり、子どもによっては電車やバスを利用して通わなければならない、不登校の子どもにとって通うハードルが高い。また、民間のフリースクールに関しても同様に立地の課題と、経済的負担の課題がある。そのため、多くの不登校の子どもは、家以外に居場所がなく、家で過ごすことが多い現状にある。また、不登校の子どもは、学校に登校している子どもに比べセルフ・エスティーム（自尊感情）が低い傾向にある。</p> <p>不登校の子どもたちが社会的自立するために、子どもが通える範囲で、無料の学校外の居場所を確保すること、学習機会の提供や人とのコミュニケーションを図るなかで自尊感情を高められる場が必要である。</p>
事業の目的	<p>不登校の子どもや、学校や家に居場所を感じられない子どもたちの居場所を作り、子どもたちの社会的自立を支援することを目的とする。</p> <p>子どもたちが笑えて、自己肯定感が高められる場とするために、不登校に関心がある学習支援員と共に、学習や調理実習、ボードゲームなどの活動を行う。活動のなかで子どもたちが、基礎的な学力やソーシャルスキルを身に付けられるよう支援する。</p>
事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 毎週日曜日の 10～14 時に根木内会館を利用し、子どもたちの居場所を開く。学習支援や書道、調理実習、ボードゲーム、ソーシャルトレーニングなどの活動をする。不登校の子どもたちが参加しやすいように、申し込みは基本的に不要とし、行きたいと思えるときに現地に来てもらう。また、学習に関しても子どもたちが楽しんで勉強できるよう、海外にいる人とオンラインで繋いで英語を学ぶなど、子どもたちが楽しめる活動をメインとする。</p> <p>② 毎週日曜日の 10～14 時に Zoom を使用し、家から出ることができない子どもたちと根木内会館からオンラインでつながり、学習支援やコミュニケーションを図る。</p> <p>③ 保護者に同意を取ったのち、利用者（対象者）へ RSES-J のアンケートを実施し、評価を行う。</p> <p>RSES (Rosenberg's Self Esteem Scale) はアメリカのローゼンバーク</p>

という自尊感情について研究をしていた社会学者が開発した自尊感情尺度であり、日本語に翻訳されたものを日本版 RSES (RSES-J) という。RSES-J は 10 個の設問に対して回答者が 4 段階で評価を行う。

- ④ チラシを松戸市にある町内の掲示板に掲示する。学校のスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、教員等に不登校の子どもがいる家庭にチラシの配布し、そして不登校の対象者に配布してもらうよう依頼する。また、地域の民生委員・児童委員にも同様に配布し、対象者がいた場合に配布してもらうよう依頼する。

## 2 スケジュール

実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
4 月～3 月	①不登校の子どもの居場所づくり実施 ②不登校の子どものオンライン学習支援実施 ①②を年間で計 50 回実施	場所：根木内会館もしくはオンライン 対象：不登校を含む学校に行きづらさを感じている松戸市の小中学生 運営：構成員、外部学習支援員
4 月	④チラシを地区の掲示板に掲載する。 近隣の学校へ配布する。	
7 月	①調理実習	場所：小金原市民センター調理実習室
10 月	③中間評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。
10 月	①調理実習（ハロウィン会）	場所：小金原市民センター調理実習室
12 月	①調理実習（クリスマス会）	場所：小金原市民センター調理実習室
3 月	③最終評価	対象者へ RSES-J のアンケートを実施し、評価する。

既存の事業からステップアップする部分  
(ステップアップ助成のみ)

事業の目標

利用者は各回対面で 10 名、オンラインで 5 名を目標とする。  
子どもたちが社会的自立するためのエネルギーとなる「自尊感情」がどれほど上昇したかによって評価を行う。  
評価は、各対象者の RSES-J (自尊感情尺度) が初期評価 (通い始めた時期) と比べ、最終評価 (3 月) で上昇することを目指す。

今後の展望

- ① 家から出ることができない子どもたちに支援が行き届くようにするため、スタッフが家庭訪問できる体制を整える。  
② 子どもたちが通える範囲 (中学校区) に 1 か所、子どもたちの居場所を開設することを目指す。

## 事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	寄付金	¥ 50,000	
	団体拠出金	¥ 84,294	事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (A)	¥ 134,294	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 100,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 234,294	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	外部の学習支援指導員への謝礼 1,000円×50回×2人
	通信運搬費	¥ 90,984	Zoom年間利用料 1,675×12か月 wifi使用料 5,907円×12か月
	印刷製本費	¥ 2,990	チラシ印刷 5.98円×500部
	消耗品費	¥ 9,000	調理実習食材 3,000円×3回
	消耗品費	¥ 20,000	数学や英語等の教科の教材 2,000円×10冊
	消耗品費	¥ 10,000	ボードゲーム 2,000円×5個
	使用料及び賃借料	¥ 1,320	小金原市民センター料理教室 440円×3回
対象経費の合計 (D)		¥ 234,294	
その他経費			
その他経費の合計 (E)		¥ 0	
合計額 (F) = (D+E)		¥ 234,294	

**【チェック項目】**

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること。
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。